



JAL 現役社員からの訴え @ JAL 本社大包围行動

(抜粋)

Dec20' 2024

皆さま、こんばんは。職場報告をいたします。
1月2日の事故からまもなく一年になります。お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈りいたしますと共に、お怪我をされた方々の1日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

衝突事故から1ヶ月も経たない1月24日、JALはA350 ニューヨーク就航セレモニーを、こともあろうかあの羽田空港で行いました。命を軽んじているとも指摘されたセレモニーでしたが、JALではその後不安全事故が続き、5月には航空局より嚴重注意を受けました。

この注意を受け、JALは職場実態を調べる記名式のアンケート調査を行いました。しかし管理職が困惑するほど回答者は少なく、後輩達に聞くと「どうせJALは変わらない」、「記名式なので本音は言えない」と、大勢が回答しない理由を教えてくださいました。

「安全を支える現場労働者は炭鉱のカナリア」であるべきです。

「危ない、それはおかしい」と、現場を知る労働者が危険を予知し、もの言わなければ安全は守れません。ところが「おかしいことはおかしい」と言ってきたカナリア達の首を、JALは15年前に切りました。
もの言えば首を切り放置する。そんな会社で、社員が安心して声を上げられるわけがありません。

一方JALは社内でもう教育しています。安全には恐怖や不安を感じることなく、誰もが自由に発言、行動できる「心理的安全性が重要」だと。

私は経営者達に聞きたい。もの言ってきた乗務員を解雇し放置するJALに、社員が「恐怖や不安を感じることなく、自由に発言、行動できる」と思えますか？

被解雇者に業務委託を提案していますが、業務委託で現役社員が心理的安全性を感じられる」と考えますか？

「カナリアが鳴かない職場」で、「安全が確保できる」と思えますか？

安全問題は現場で起こっています。天王洲の会議室ではありません。
24時間、365日、今も仲間達がフライトしています。

安心して本音が言える職場無くして安全無し！

これを強く訴えまして、職場からの報告とさせていただきます。